



PEACEBOAT PEACE おりづるプロジェクト

ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World
PeaceBoat Hibakusha Project

ピースボート

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL03-3363-7561 FAX03-3363-7562

info@peaceboat.gr.jp

2017/08/25

第95回ピースボート おりづるプロジェクト 概要 ～核兵器禁止条約を世界に広める～

■概要

NGOピースボートは、2008年から広島・長崎の被爆者が世界を周りその体験を証言する「おりづるプロジェクト」を実施してきました。これまでに170名以上の被爆者が参加し、「核なき世界」へのアピールを行ってきました。

第95回ピースボート「地球一周の船旅」(2017年8月13日～11月24日)では長崎の被爆者1名が欧州、米国、ラテンアメリカ諸国を訪れ、証言活動を通して核廃絶を訴えます(活動期間は2017年10月3日～30日)。また、長崎の被爆三世である若者が「ユース特使」として活動に参加します。

核兵器の非人道性に関する国際世論を受け、今年7月、国連で核兵器禁止条約が成立しました。被爆者たちの声が、国際ルールとして実を結んだものと言えます。本プロジェクトでは、核兵器禁止条約に多くの国々が早期に署名・批准するよう、寄港する各地で呼びかけます。そのために、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名(「ヒバクシャ国際署名」)も集めていきます。

被爆者の平均年齢は81歳を超え、原爆や戦争の認識はどんどん薄れていきます。第二次世界大戦の苦難を知る人がいなくなる中で、戦争や軍事化を肯定する危うい動きも見られます。ピースボートには多くの日本人や東アジアの人々が乗船しており、船内においても証言活動や戦争と平和に関する議論を進めていきます。

■期間・寄港地

2017年10月3日(火)(エディンバラ(スコットランド))～10月30日(月)(コリント(ニカラグア))

寄港地:レイキャビク(アイスランド)、ニューヨーク(米国)、ハバナ(キューバ)、コスメル(メキシコ)等

■参加者略歴

《被爆者》

木村 徳子(キムラ・トクコ)

長崎被爆 1935年6月25日生まれ 被爆当時10歳

東京都世田谷区在住

長崎市新地町(爆心地より3.6Km)地点にあった自宅の2階で、弟妹とともに被爆。レンガの壁の下敷きになるものの必死に這い出し避難する中で、原爆投下直後の悲惨な状態を目の当たりにした。その後、長崎放送のアナウンサーとして様々な仕事に従事、結婚を機に東京へ移住。それからしばらくして、被爆者として原爆投下時の様子や自身の一生、そして次世代まで残る「被ばく」について、40年ほど前より証言活動を始める。2000年からはその活動に加え、被爆者援護の活動や核廃絶署名活動を行う。2010年と2015年には、ニューヨーク国連本部で行われたNPT(核不拡散条約)検討会議を前進させるために、代表団として参加。現在は世田谷同友会の会長を務めるとともに、東京都原爆被爆者団体協議会(東友会)の実相普及委員会の副委員長を務める。



《ユース特使》

浦田 沙緒音(ウラタ・シオン)

東京都出身、京都府京都市在住 現在23歳

2003年、イラク戦争をきっかけに友人たちと平和活動団体を立ち上げ、Tシャツ販売やワークショップなどを通して発信。芸術でこそ多くのひとに伝える力があると確信し芸術家を目指していた高校生のとき、東日本大震災と福島原発事故(2011年3月)が起こり、京都造形芸術大学進学と同時に京都へ移住。主に社会的要素のある芸術作品を制作している。緑の党(2014～16年京都府本部共同代表)、SEALDs KANSAI、関西市民連合などの市民活動に参加。母の地元が広島で血縁に原爆歌人の正田篠枝氏がいること、父方の祖父が長崎で入市被ばくしているという自身のルーツを見つめ直し、表現者としての経験を積むために今回のプロジェクトへの参加を決めた。



■ウェブサイト

プロジェクトHP : <http://www.peaceboat.org/projects/hibakusha/>

ブログ : <http://ameblo.jp/hibakushaglobal/>